

# 2008 年 (平成 20 年) 感染症発生動向調査結果

## 一患者情報一

## 2008年（平成20年）感染症発生動向調査事業 報告週対応表

1月						
週	月	火	水	木	金	土 日
1		1	2	3	4	5 6
2	7	8	9	10	11	12 13
3	14	15	16	17	18	19 20
4	21	22	23	24	25	26 27
5	28	29	30	31		

7月						
週	月	火	水	木	金	土 日
27		1	2	3	4	5 6
28	7	8	9	10	11	12 13
29	14	15	16	17	18	19 20
30	21	22	23	24	25	26 27
31	28	29	30	31		

2月						
週	月	火	水	木	金	土 日
5					1	2 3
6	4	5	6	7	8	9 10
7	11	12	13	14	15	16 17
8	18	19	20	21	22	23 24
9	25	26	27	28	29	

8月						
週	月	火	水	木	金	土 日
31					1	2 3
32	4	5	6	7	8	9 10
33	11	12	13	14	15	16 17
34	18	19	20	21	22	23 24
35	25	26	27	28	29	30 31

3月						
週	月	火	水	木	金	土 日
9						1 2
10	3	4	5	6	7	8 9
11	10	11	12	13	14	15 16
12	17	18	19	20	21	22 23
13	24	25	26	27	28	29 30
14	31					

9月						
週	月	火	水	木	金	土 日
36	1	2	3	4	5	6 7
37	8	9	10	11	12	13 14
38	15	16	17	18	19	20 21
39	22	23	24	25	26	27 28
40	29	30				

4月						
週	月	火	水	木	金	土 日
14		1	2	3	4	5 6
15	7	8	9	10	11	12 13
16	14	15	16	17	18	19 20
17	21	22	23	24	25	26 27
18	28	29	30			

10月						
週	月	火	水	木	金	土 日
40			1	2	3	4 5
41	6	7	8	9	10	11 12
42	13	14	15	16	17	18 19
43	20	21	22	23	24	25 26
44	27	28	29	30	31	

5月						
週	月	火	水	木	金	土 日
18				1	2	3 4
19	5	6	7	8	9	10 11
20	12	13	14	15	16	17 18
21	19	20	21	22	23	24 25
22	26	27	28	29	30	31

11月						
週	月	火	水	木	金	土 日
44						1 2
45	3	4	5	6	7	8 9
46	10	11	12	13	14	15 16
47	17	18	19	20	21	22 23
48	24	25	26	27	28	29 30

6月						
週	月	火	水	木	金	土 日
22						1
23	2	3	4	5	6	7 8
24	9	10	11	12	13	14 15
25	16	17	18	19	20	21 22
26	23	24	25	26	27	28 29
27	30					

12月						
週	月	火	水	木	金	土 日
49	1	2	3	4	5	6 7
50	8	9	10	11	12	13 14
51	15	16	17	18	19	20 21
52	22	23	24	25	26	27 28
1	29	30	31			

「愛媛県感染症情報」発行日

## 2008年(平成20年)感染症発生動向調査結果 - 患者情報 -

## 1 全数把握対象 ー 五類感染症及び新型インフルエンザ等感染症

## (1) 一類感染症

一類感染症の届出はなかった。

## (2) 二類感染症

## 結核

結核は 243 人の届出があり、患者 218 人、無症状病原体保有者 24 人、感染症死亡者 1 人であった。性別は、男性 146 人、女性 97 人で、年齢区分は 10 歳未満 6 人、10 歳代 1 人、20 歳代 19 人、30 歳代 21 人、40 歳代 12 人、50 歳代 19 人、60 歳代 30 人、70 歳代 58 人、80 歳代以上 77 人であった。感染経路は、飛沫・飛沫核感染が 144 人、その他が 99 人であった。感染地域は、国内が 238 人、国外が 5 人(中華人民共和国 2 人、インドネシア 2 人、フィリピン 1 人)であった。

なお、結核の動向については、平成 19 年から稼働している『結核登録者情報システム』で集計された内容を基に、別章に掲載した(参照：本事業報告書 2008 年(平成 20 年)結核登録者情報)。

## (3) 三類感染症

## 細菌性赤痢

細菌性赤痢は、患者 2 人の届出があった。性別は男性 1 人、女性 1 人で、年齢別では 20 歳代 1 人、70 歳代 1 人であった。感染地域は全て国外(ネパール、ベトナム)であった。患者から分離された菌型は、ボイド菌 1 件、ソンネ菌 1 件であった。

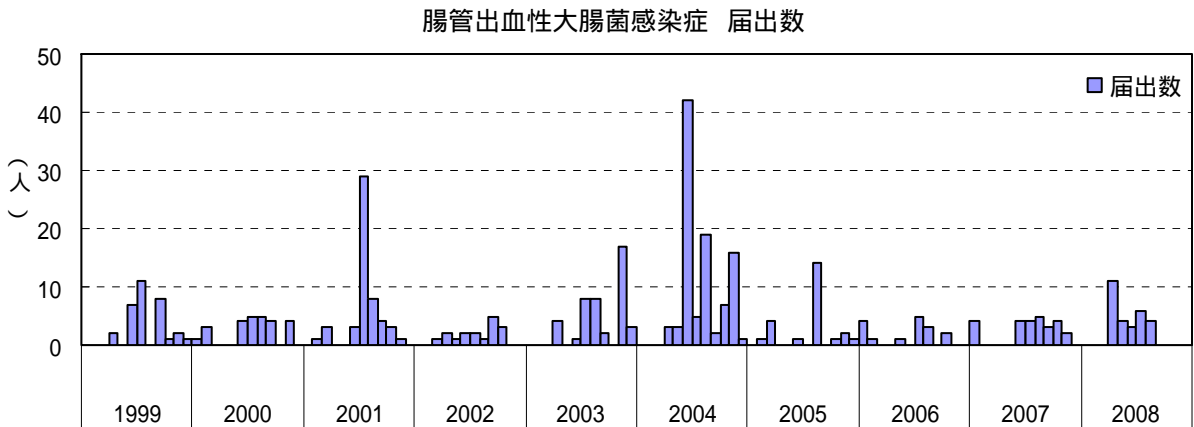
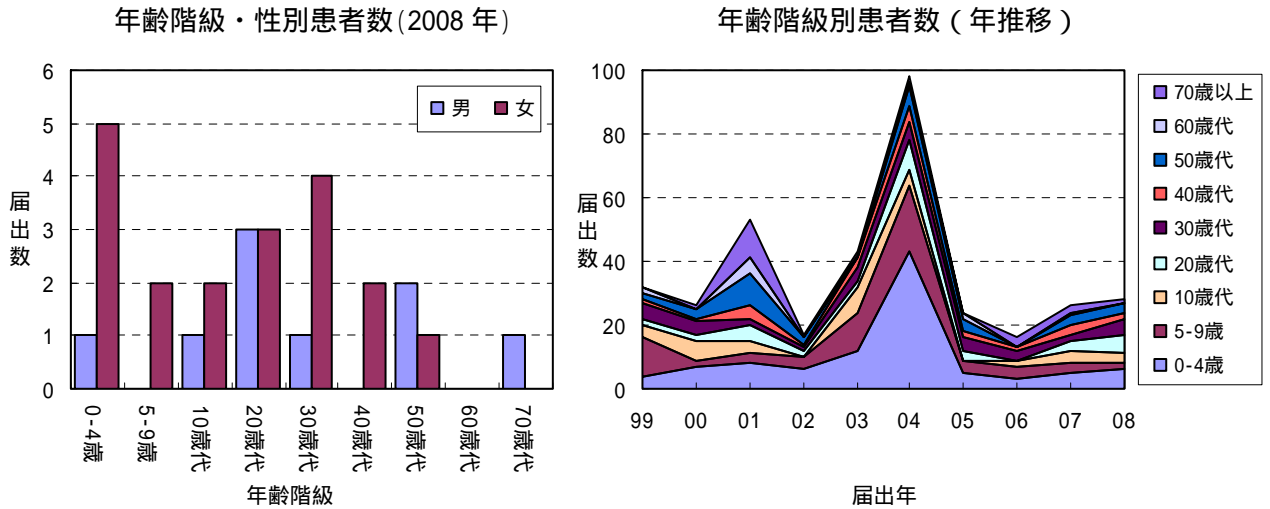
届出日	届出週	性別	年齢別	菌型	症状	感染地域
1月 29日	5	男	70歳代	ボイド	有	ネパール
10月 9日	41	女	20歳代	ソンネ	有	ベトナム

## 腸管出血性大腸菌感染症

腸管出血性大腸菌感染症は18事例28人(患者23人、無症状病原体保有者5人)の届出があった。性別は男性9人、女性19人であった。年齢別は、10歳未満が8人(乳幼児7人、小学生1人)、10歳代3人(小学生1名を含む)、20歳代6人、30歳代5人、40歳代2人、50歳代3人、70歳代1人であり、10歳未満が全体の28.6%を占めた。推定感染経路は経口感染15人、接触感染が5人、その他(不明)が8人であった。感染地域は全て国内で、保育園内での発生が1事例、同一家庭内の発生は6事例であった。血清型(Vero毒素)はO157 26人(VT1・VT2 19人、VT1 2人、VT2 3人、毒素型不明 2人)、O26 2人(VT1)であった。溶血性尿毒症症候群(HUS)は2人(小学生1人、10歳代1人)の報告があり、この2人は重篤化することなく軽快している。

本疾患は通常食べ物を介して夏季に多発する傾向があり、2008年は4~8月に全ての届出があった。さらに、全国では近年、生肉や生レバーが感染源であった事例が多くなっており、愛媛県においても経口感染者15人のうち、5人(経口感染例中33.3%)は牛生レバーが原因食材として報告された。今後、食品関連施設や家庭での生肉及び生レバーの取り扱いや手洗いなど、二次感染防止等の啓発が重要である。

事例番号	届出月日	届出週	年齢別	性別	症状	発生地 (患者住所地)	血清型	ベロ毒素
1	4月 9日	15	50歳代	男	有	今治市	O157	VT1・VT2
	4月 11日	15	20歳代	男	有			
2	4月 9日	15	10歳代	女	有	鬼北町	O157	VT1・VT2
	4月 14日	16	40歳代	女	無			
	4月 14日	16	50歳代	男	無			
3	4月 18日	16	10歳未満(小学生)	女	有	内子町	O157	毒素型不明
4	4月 24日	17	40歳代	女	有	宇和島市	O157	VT1・VT2
5	4月 26日	17	10歳未満(乳幼児)	男	有	今治市	O157	VT1・VT2
	4月 26日	17	10歳未満(乳幼児)	女	有			
	4月 28日	18	10歳未満(乳幼児)	女	有			
6	4月 28日	18	10歳代	女	有	内子町	O157	毒素型不明
7	5月 1日	18	20歳代	男	有	今治市	O157	VT1・VT2
8	5月 19日	21	50歳代	女	有	今治市	O157	VT1・VT2
9	5月 19日	21	10歳未満(乳幼児)	女	有	宇和島市	O26	VT1
	5月 23日	21	30歳代	女	無			
10	6月 13日	24	20歳代	女	有	松山市	O157	VT1・VT2
11	6月 20日	25	20歳代	男	有	松山市	O157	VT1・VT2
12	6月 23日	26	30歳代	女	有	松山市	O157	VT1・VT2
13	7月 10日	28	10歳未満(乳幼児)	女	有	松山市	O157	VT2
	7月 13日	28	20歳代	女	有			
14	7月 15日	29	70歳代	男	有	新居浜市	O157	VT2
15	7月 15日	29	30歳代	女	有	松山市	O157	VT1
	7月 23日	30	30歳代	男	無			
16	7月 31日	31	20歳代	女	有	宇和島市	O157	VT1・VT2
17	8月 8日	32	10歳未満(乳幼児)	女	有	今治市	O157	VT1・VT2
	8月 11日	33	10歳未満(乳幼児)	女	有			
	8月 11日	33	30歳代	女	無			
18	8月 20日	34	10歳代(小学生)	男	有	宇和島市	O157	VT1・VT2



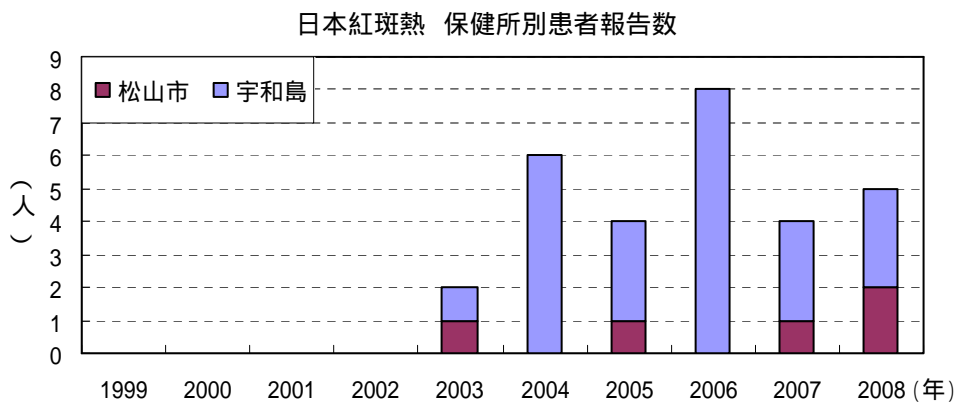
(4) 四類感染症

日本紅斑熱

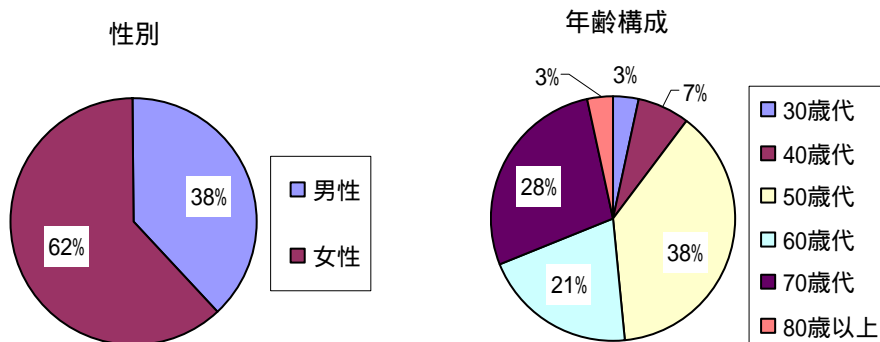
日本紅斑熱は5～10月に5人の届出があった。年齢は40歳代1人、50歳代1人、60歳代1人、70歳代2人であった。性別は例年女性が多い傾向があるが、2008年は男性4人、女性1人と男性の方が多かった。届出保健所は松山市保健所管内2人、宇和島保健所管内3人であった。感染地域は全て国内で、感染経路はダニ(マダニ)による感染であった。

本疾患は2003年8月に県内で初めて患者が中予で届出されて以降、2003年2人、2004年6人、2005年4人、2006年8人、2007年4人と毎年報告されている。2003年以降報告された患者(29人)のうち、女性が62%(18人)を占め、年齢は50歳以上の壮高年者が90%(26人)を占めている。また、宇和島保健所管内からの報告が83%(24人)を占めており、今後の動向に注意が必要である。

届出日	届出週	性別	年齢	症状	届出保健所	確定感染地域	感染経路
5月 15日	20	男	60歳代	発熱、発疹、 肝機能異常	宇和島	国内 (宇和島市)	マダニ
8月 25日	35	女	50歳代	発熱、発疹、 肝機能異常、腎機能障害	松山市	国内 (松山市)	動物・蚊・ 昆虫等からの感染
10月 2日	40	男	70歳代	発熱、頭痛、刺し口、 発疹、肝機能異常	宇和島	国内 (宇和島市)	マダニ
10月 2日	40	男	70歳代	発熱、刺し口、発疹	松山市	国内	動物・蚊・ 昆虫等からの感染
10月 29日	44	男	40歳代	発熱、頭痛、発疹、 肝機能異常	宇和島	国内 (宇和島市)	マダニ



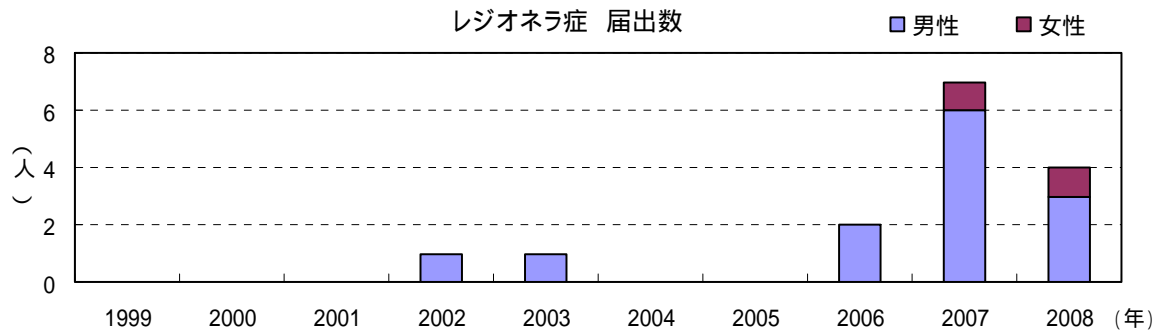
2003年以降届出された日本紅斑熱患者(29人)の内訳



## レジオネラ症

レジオネラ症は4人の届出があった。病型は全て肺炎型で、性別は男性3人、女性1人で、年齢は、50歳代1人、70歳代3人であった。推定感染地域は全て国内で、推定感染経路は水系感染が2人、不明が2人であった。診断方法は尿中の病原体抗原の検出が3人、病原体の検出によるものが1人であった。

届出日	届出週	病型	性別	年齢別	症状	推定感染地域	推定感染経路
2月 21日	8	肺炎型	男	50歳代	発熱、咳嗽、肺炎	国内	水系感染
5月 30日	22	肺炎型	女	70歳代	肺炎	国内	水系感染
7月 7日	28	肺炎型	男	70歳代	発熱、咳嗽	国内	不明
11月 13日	46	肺炎型	男	70歳代	発熱、咳嗽、呼吸困難 腹痛、意識障害、肺炎	国内	不明

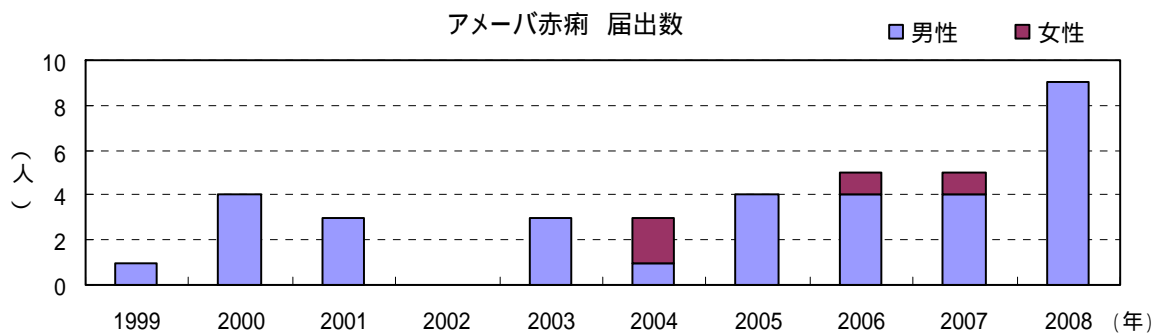


(5) 五類感染症

アメーバ赤痢

アメーバ赤痢は9人の届出があり、病型は腸管アメーバ症5人、腸管外アメーバ症3人、腸管アメーバ症及び腸管外アメーバ症1人であった。性別は全て男性で、年齢は30歳代3人、40歳代3人、50歳代2人、60歳代1人であった。推定感染地域は全て国内で、推定感染経路は性的接触2人(異性間1人、同性間1人)、経口感染1人、不明が6人であった。

届出日	届出週	性別	年齢別	症状	推定感染地域	推定感染経路
3月 24日	13	男	40歳代	発熱、肝膿瘍	国内	不明
5月 26日	22	男	30歳代	下痢、粘血便	国内	不明
6月 13日	24	男	50歳代	下痢	国内	異性間性的接触
6月 16日	25	男	60歳代	肝膿瘍	国内	不明
7月 8日	28	男	50歳代	下痢	国内	不明
7月 24日	30	男	30歳代	下痢、粘血便、腹痛、発熱	国内	不明
7月 28日	31	男	40歳代	下痢、粘血便	国内	不明
8月 29日	35	男	30歳代	肝膿瘍	国内	経口感染
9月 22日	39	男	40歳代	下痢、発熱 右季助部痛、肝膿瘍	国内	同性間性的接触

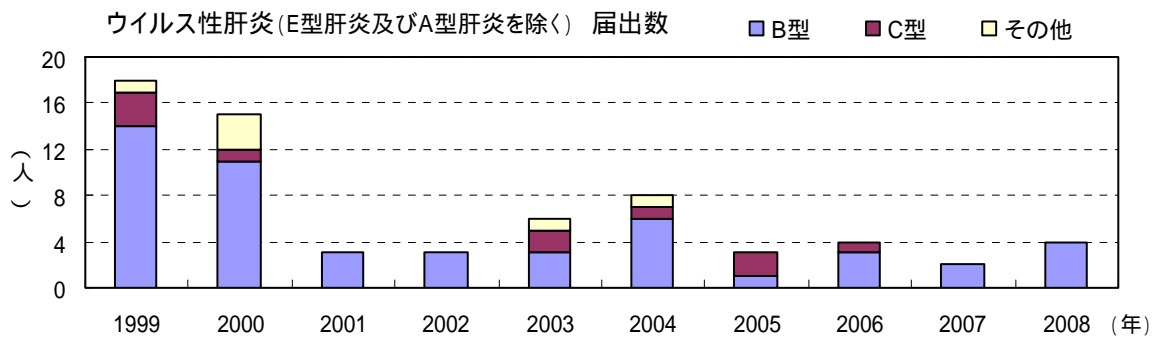




## ウイルス性肝炎（E型肝炎及びA型肝炎を除く）

ウイルス性肝炎は4人の届出があり、病型は全てB型であった。性別は男性2人、女性2人で、年齢は20歳代3人、30歳代1人であった。感染地域は全て国内で、推定感染経路は全て異性間性的接触であった。

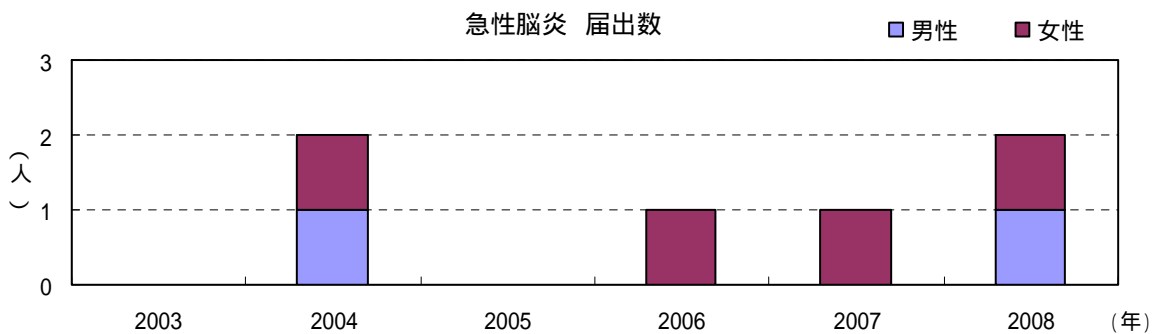
届出日	届出週	病型	性別	年齢別	症状	感染地域	推定感染経路
1月 21日	4	B型	女	20歳代	全身倦怠感、褐色尿 食欲不振	国内	異性間性的接触
3月 10日	11	B型	男	30歳代	全身倦怠感、肝機能異常 黄疸、上腹部痛	国内	異性間性的接触
8月 18日	34	B型	男	20歳代	全身倦怠感、発熱、黄疸	国内	異性間性的接触
8月 18日	34	B型	女	20歳代	全身倦怠感、発熱	国内	異性間性的接触



## 急性脳炎

急性脳炎は2人の届出があった。性別は男性1人、女性1人で、年齢は80歳代1人、90歳代1人で、病原体はともに不明であった。推定感染経路はともに国内で、推定感染経路は不明であった。

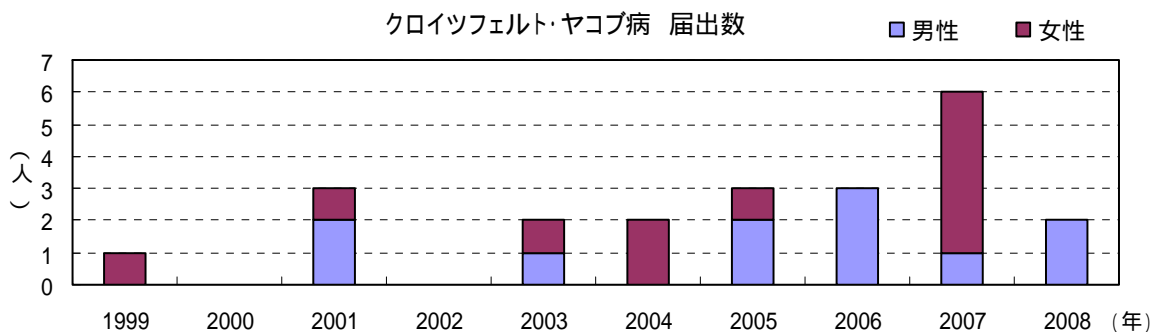
届出日	届出週	病型	性別	年齢別	推定感染地域	推定感染経路
9月 26日	39	病原体不明	男	80歳代	国内	不明
10月 16日	42	病原体不明	女	90歳代	国内	不明



## クロイツフェルト・ヤコブ病

クロイツフェルト・ヤコブ病は2人の届出があった。性別はともに男性で、年齢は70歳代1人、80歳代1人であった。病型はともに孤発性で、診断の確実度はほぼ確実例であった。本疾患は1999年以降、年間報告数が0~3人で推移していた。2007年には6人とほぼ倍増したが、2008年は例年とほぼ同程度の発生であった。

届出日	届出週	病型（診断の確実度）	性別	年齢別	症状
8月 11日	33	孤発性（ほぼ確実）	男	70歳代	進行性認知症、ミオクローヌス、錐体外路症状、無動性無言状態、記憶障害、精神・知能障害
9月 9日	37	孤発性（ほぼ確実）	男	80歳代	進行性認知症、ミオクローヌス、錐体外路症状、錐体外路症状、無動性無言状態、記憶障害、精神・知能障害、筋強剛



## 劇症型溶血性レンサ球菌感染症

劇症型溶血性レンサ球菌感染症は1人の届出があった。性別は女性で、年齢は60歳代であった。病原体はA群で、推定感染地域は国内、推定感染経路は創傷感染（下肢に創傷あり）であった。

届出日	届出週	病原体	性別	年齢別	症状	推定感染地域	推定感染経路
2月 20日	8	A群	女	60歳代	ショック、肝不全 軟部組織炎	国内	創傷感染 (転倒し、下肢に創傷)

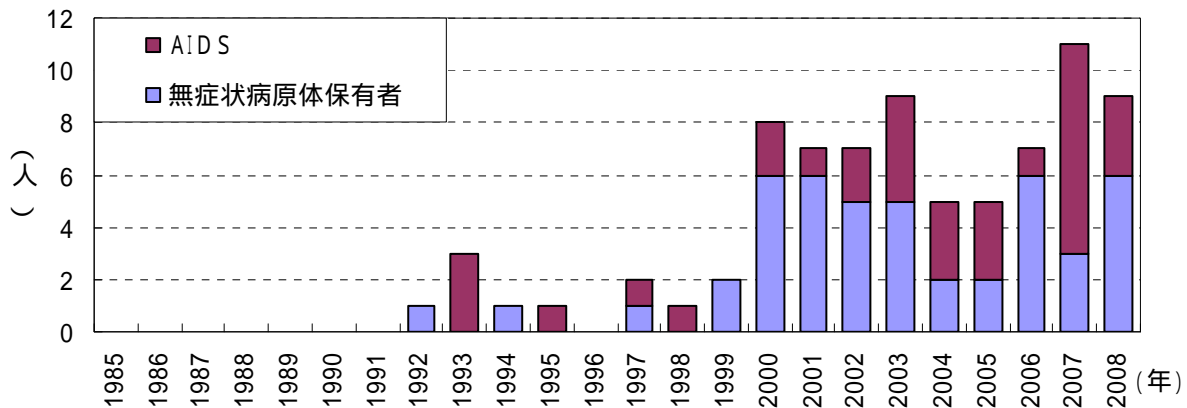
## 後天性免疫不全症候群

後天性免疫不全症候群は9人の届出があった。病型は無症状病原体保有者6人、AIDS3人で、2007年は届出時点で既にAIDSを発症している割合が72.7%と高かったが、2008年は33%程度に減少した。性別は全て男性で、年齢は10歳代1人（無症状病原体保有者）、20歳代1人（無症状病原体保有者）、30歳代5人（無症状病原体保有者2人、AIDS3人）、40歳代2人（無症状病原体保有者）であった。感染地域は国内8人、国外1人で、推定感染経路は性的接触7人（異性間1人、同性間（両生間を含む）6人）、不明2人であった。県内の無症状病原体保有者及びAIDS患者数の年次推移をみると、1992年に初めて届出されてから1999年までは毎年1~2人程度で推移していた。2000年以降は年間5~8人と届出数のやや多い状態が続いていたが、2007年は11人と最も多く、2008年は9人となった。1999年4月1日以降、感染症法に基づいて届出された70人のうち、性別では男性が全体の91%を、年齢区分別では20~30歳代で69%を占め、

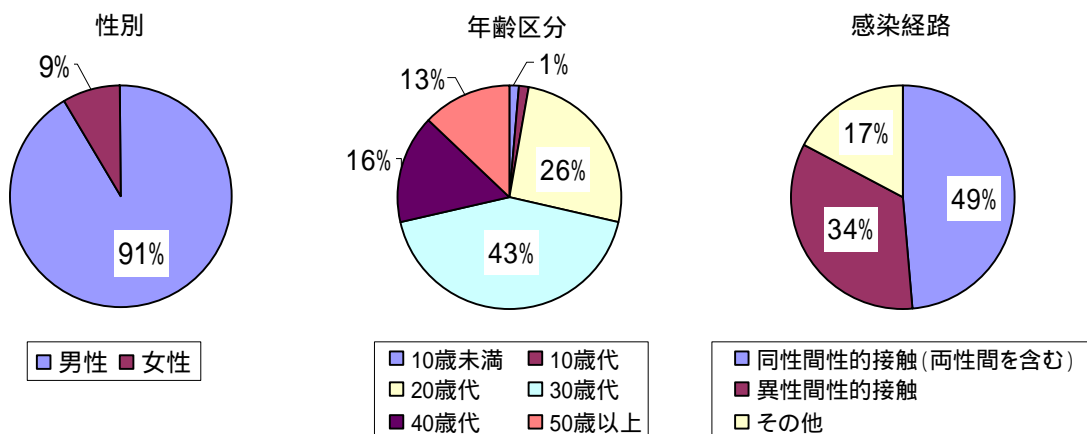
感染経路別では同性間性的接触（両性間を含む）が49%を占めた。全国では男性の同性間性的接触による感染例の増加が著しく、また10歳代の同性間性的接触による感染者数が増加傾向にある。愛媛県内においても2008年は届出のあった9人中6人（67%）が男性の同性間性的接触による感染事例であり、全国的な傾向と同様、県内においても20～30歳代の男性の同性間性的接触が主要な感染経路と考えられる。なお、2008年は10歳代の感染例の初の届出があった。

届出日	届出週	病型	性別	年齢別	感染地域	感染経路
1月 18日	3	AIDS	男	30歳代	国内	同性間性的接触
4月 22日	17	AIDS	男	30歳代	国内	不明
5月 7日	19	無症状病原体保有者	男	10歳代	国内	同性間性的接触
5月 16日	20	AIDS	男	30歳代	国内	不明
6月 9日	24	無症状病原体保有者	男	30歳代	国内	同性間性的接触
10月 3日	40	無症状病原体保有者	男	40歳代	国外	異性間・同性間性的接触
12月 4日	49	無症状病原体保有者	男	40歳代	国内	異性間性的接触
12月 15日	51	無症状病原体保有者	男	20歳代	国内	同性間性的接触
12月 17日	51	無症状病原体保有者	男	30歳代	国内	同性間性的接触

愛媛県におけるHIV感染者およびAIDS患者の年次推移



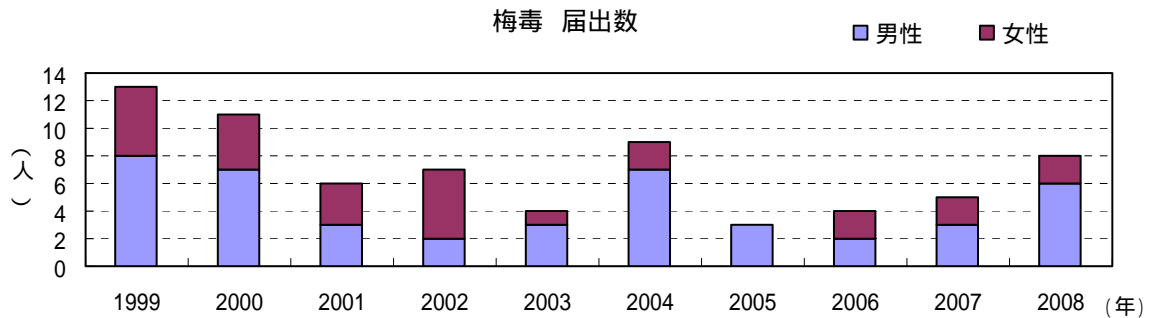
1999年4月以降 感染症法に基づいて届出された患者(70人)の内訳



梅毒

梅毒は8人の届出があり、早期顕症梅毒(Ⅰ期)4人、早期顕症梅毒(Ⅱ期)4人であった。性別は男性6人、女性2人で、年齢は10歳代1人、20歳代1人、30歳代2人、40歳代2人、50歳代2人であった。感染地域はいずれも国内で、感染経路は全て異性間性的接触であった。

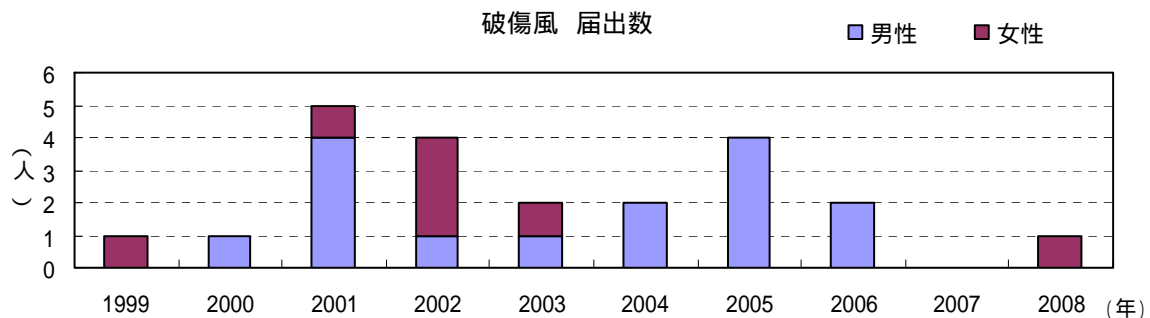
届出日	届出週	病型	性別	年齢別	感染地域	感染経路
3月 5日	10	早期顕症梅毒Ⅰ期	男	50歳代	国内	異性間性的接触
3月 24日	13	早期顕症梅毒Ⅱ期	女	30歳代	国内	異性間性的接触
5月 9日	19	早期顕症梅毒Ⅱ期	女	10歳代	国内	異性間性的接触
6月 11日	24	早期顕症梅毒Ⅱ期	男	30歳代	国内	異性間性的接触
7月 4日	27	早期顕症梅毒Ⅱ期	男	40歳代	国内	異性間性的接触
7月 22日	30	早期顕症梅毒Ⅰ期	男	50歳代	国内	異性間性的接触
8月 29日	35	早期顕症梅毒Ⅰ期	男	20歳代	国内	異性間性的接触
9月 10日	37	早期顕症梅毒Ⅰ期	男	40歳代	国内	異性間性的接触



破傷風

破傷風は1人の届出があった。性別は女性で、年齢は60歳代であった。推定感染地域は国内で、推定感染経路は特定できていないが、患者は毎日農作業に従事し、発症約2週間前にイチゴ狩りへ参加していた。

届出日	届出週	性別	年齢別	推定感染地域	推定感染経路	病型
2月 26日	9	女	60歳代	国内	その他 (農作業、イチゴ狩り)	筋肉のこわばり、開口障害、 嚥下障害、発語障害、 痙攣、反弓緊張



## 風しん

風しんは、2008年1月1日から感染症法の改正に伴い、定点把握対象疾患から全数把握対象疾患に変更された。

風しんは1人の届出があった。性別は男性で、年齢は20歳代であった。病型は検査診断例で、推定感染地域は国内、推定感染経路は不明であった。

届出日	届出週	病型	性別	年齢別	推定感染地域	推定感染経路
1月 30日	5	検査診断例	男	20歳代	国内	不明

## 麻疹

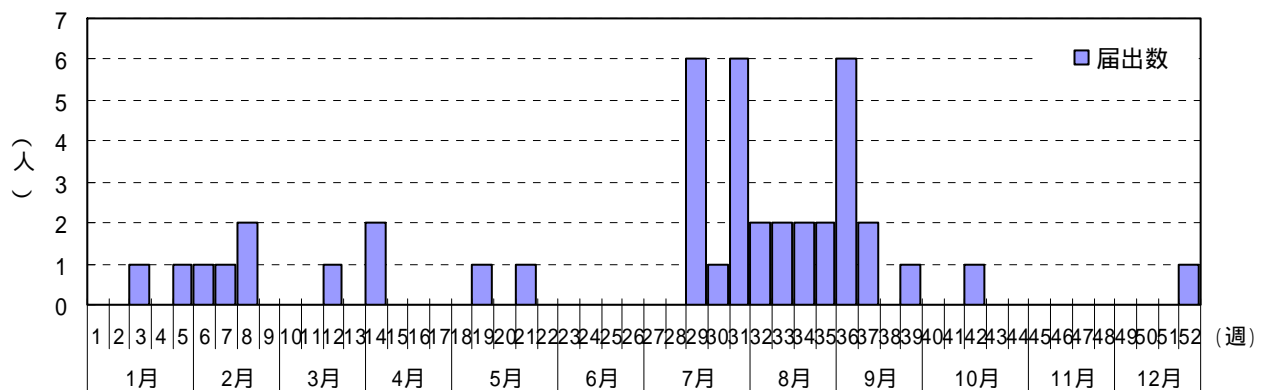
麻疹は、2008年1月1日から感染症法の改正に伴い、定点把握対象疾患から全数把握対象疾患に変更された。

麻疹は43人の届出があった。性別は男性22人、女性21人で、年齢は10歳未満6人、10歳代28人、20歳代4人、30歳代4人、50歳代1人であった。病型は検査診断例が22人、臨床診断例20人、修飾麻疹(検査診断例)1人であった。感染地域は全て国内で、感染経路は飛沫・飛沫核感染22人、接触感染10人、不明11人であった。

本疾患は集団生活が始まる4～5月にかけて患者数が増加する傾向がある。2008年は1～6月は県内全域で散發程度の発生に留まっていたが、7月中旬に松山市内の高校生が関東地方への修学旅行中に感染した集団発生事例があり、その後7～9月にかけて松山市内の10歳代を中心に発生が続いた。

世界保健機関(WHO)では、日本を含む西太平洋地域において、2012年までに麻疹を排除するという目標を定めている。日本でも、2012年の麻疹排除(Elimination)を目標に、2007年8月厚生労働省において「麻疹排除計画」が策定された。愛媛県においても、麻疹排除に向けて、麻疹対策の強化と推進が開始されている。

麻疹(はしか) 届出数



届出日	届出週	病型	性別	年齢別	感染地域	感染経路
1月 21日	4	検査診断例	女	10歳未満	国内	飛沫・飛沫核感染
2月 4日	6	臨床診断例	女	10歳未満	国内	不明
2月 15日	7	臨床診断例	女	20歳代	国内	接触感染(兄弟間)
2月 15日	7	臨床診断例	女	30歳代	国内	接触感染(兄弟間)
2月 20日	8	臨床診断例	女	20歳代	国内	接触感染(兄弟間)
2月 21日	8	検査診断例	女	30歳代	国内	飛沫・飛沫核感染
3月 19日	12	検査診断例	女	10歳代	国内	飛沫・飛沫核感染
4月 3日	10	臨床診断例	女	50歳代	国内	接触感染(親子間)
4月 10日	15	臨床診断例	男	10歳代	国内	飛沫・飛沫核感染
5月 8日	19	臨床診断例	女	10歳代	国内	不明
5月 23日	21	臨床診断例	男	10歳未満	国内	不明
7月 17日	29	臨床診断例	男	10歳代	国内	飛沫・飛沫核感染
7月 18日	29	臨床診断例	男	10歳代	国内	飛沫・飛沫核感染
7月 18日	29	検査診断例	男	10歳代	国内	飛沫・飛沫核感染
7月 18日	29	検査診断例	男	10歳代	国内	飛沫・飛沫核感染
7月 18日	29	検査診断例	男	10歳代	国内	飛沫・飛沫核感染
7月 19日	29	臨床診断例	男	10歳代	国内	飛沫・飛沫核感染
7月 26日	30	臨床診断例	女	10歳代	国内	飛沫・飛沫核感染(兄弟間)
7月 30日	31	検査診断例	女	10歳代	国内	飛沫・飛沫核感染(兄弟間)
7月 30日	31	検査診断例	男	10歳未満	国内	飛沫・飛沫核感染(兄弟間)
7月 30日	31	検査診断例	女	10歳未満	国内	不明
7月 31日	31	検査診断例	男	10歳代	国内	不明
7月 31日	31	臨床診断例	男	10歳代	国内	飛沫・飛沫核感染(兄弟間)
7月 31日	31	臨床診断例	女	10歳代	国内	接触感染(兄弟間)
8月 5日	32	臨床診断例	男	10歳代	国内	不明
8月 6日	32	臨床診断例	男	10歳代	国内	不明
8月 11日	33	臨床診断例	男	10歳代	国内	接触感染
8月 12日	33	検査診断例	女	10歳代	国内	接触感染
8月 18日	34	検査診断例	男	10歳代	国内	接触感染(兄弟間)
8月 21日	34	検査診断例	男	10歳代	国内	接触感染(兄弟間)
8月 28日	35	検査診断例	男	10歳代	国内	飛沫・飛沫核感染(兄弟間)
8月 28日	35	検査診断例	女	10歳代	国内	飛沫・飛沫核感染(兄弟間)
9月 1日	36	検査診断例	男	10歳代	国内	不明
9月 1日	36	臨床診断例	女	10歳代	国内	飛沫・飛沫核感染
9月 2日	36	検査診断例	女	10歳代	国内	飛沫・飛沫核感染(兄弟間)
9月 2日	36	検査診断例	男	10歳代	国内	飛沫・飛沫核感染(兄弟間)
9月 3日	36	臨床診断例	男	10歳代	国内	接触感染(兄弟間)
9月 5日	36	検査診断例	女	10歳未満	国内	飛沫・飛沫核感染(兄弟間)
9月 11日	37	検査診断例	女	30歳代	国内	不明
9月 11日	37	修飾麻しん(検査診断例)	女	20歳代	国内	不明
9月 22日	39	検査診断例	女	20歳代	国内	飛沫・飛沫核感染
10月 14日	42	臨床診断例	男	30歳代	国外	飛沫・飛沫核感染
12月 22日	52	検査診断例	男	10歳未満	国内	不明

(6) 新型インフルエンザ等感染症

2008年5月12日から届出対象疾患となった。新型、再興型ともに届出はなかった。

表 2-1-1 全数把握対象疾患発生状況(年推移)

感染症 類 型	疾病名	愛媛県						全国						
		2008	2007	2006	2005	2004	2003	2008	2007	2006	2005	2004	2003	
一類	エボラ出血熱													
	クリミア・コンゴ出血熱													
	痘そう <sup>1</sup>													
	南米出血熱 <sup>2</sup>			-	-	-	-			-	-	-	-	
	ペスト													
	マールブルグ病													
二類	ラッサ熱													
	急性灰白髄炎							2						
	結核 <sup>2</sup>	243	267	-	-	-	-	28419	21946	-	-	-	-	-
	ジフテリア													
	重症急性呼吸器症候群(SARS-CoVに限る) <sup>1</sup>													
三類	鳥インフルエンザ(H5N1)				-	-	-				-	-	-	-
	コレラ				1			45	13	45	56	86	25	
	細菌性赤痢	2	3	6		3	3	320	452	490	553	594	473	
	腸管出血性大腸菌感染症	28	26	16	24	98	43	4322	4617	3922	3589	3715	2999	
	腸チフス			2				57	47	72	50	67	62	
	パラチフス							27	22	26	20	88	44	
	E型肝炎					2	1	43	56	71	42	37	30	
	ウエストナイル熱(ウエストナイル脳炎を含む)										1			
	A型肝炎		1	4		2	18	170	157	320	170	139	303	
	エキノコックス症							22	25	20	20	26	20	
四類	黄熱													
	オウム病		1		1	1		9	29	22	34	40	44	
	オムスク出血熱 <sup>2</sup>			-	-	-	-			-	-	-	-	
	回帰熱													
	キヤサヌル森林病 <sup>2</sup>			-	-	-	-			-	-	-	-	
	Q熱							3	7	2	8	7	9	
	狂犬病									2				
	コクシジオイデス症							2	3	2	5	5	1	
	サル痘 <sup>1</sup>													
	腎症候性出血熱													
	西部ウマ脳炎 <sup>2</sup>			-	-	-	-			-	-	-	-	
	ダニ媒介脳炎 <sup>2</sup>			-	-	-	-			-	-	-	-	
	炭疽													
	つつが虫病			2				442	382	417	345	313	402	
	デング熱							104	89	58	74	49	32	
	東部ウマ脳炎 <sup>2</sup>			-	-	-	-							
	鳥インフルエンザ(H5N1を除く)													
	ニバウイルス感染症 <sup>1</sup>													
	日本紅斑熱	5	4	8	4	6	2	132	98	49	62	66	52	
	日本脳炎							3	10	7	7	5	1	
	ハンタウイルス肺症候群													
	Bウイルス病													
	鼻疽 <sup>2</sup>													
	ブルセラ症							4	1	5	2			
	ベネズエラウマ脳炎 <sup>2</sup>			-	-	-	-			-	-	-	-	
	ヘンドラウイルス感染症 <sup>2</sup>			-	-	-	-			-	-	-	-	
	発疹チフス													
	ボツリヌス症							2	3	2	3			
	マラリア				2	1	2	56	52	62	67	75	78	
	野兔病 <sup>1</sup>							5						
ライム病							5	11	13	8	5	5		
リッサウイルス感染症 <sup>1</sup>														
リフトバレー熱 <sup>2</sup>			-	-	-	-			-	-	-	-		
類鼻疽 <sup>2</sup>			-	-	-	-			-	-	-	-		
レジオネラ症	4	7	2			1	893	668	518	281	161	146		
レプトスピラ症 <sup>1</sup>					1		42	35	24	17	18	1		
ロッキー山紅斑熱 <sup>2</sup>			-	-	-	-			-	-	-	-		
五類	アメーバ赤痢	9	5	5	4	3	3	872	801	752	698	610	520	
	ウイルス性肝炎(E型肝炎、A型肝炎を除く)	4	2	4	3	8	6	241	237	282	276	293	333	
	急性脳炎 <sup>1</sup>	2	1	1		2		190	228	167	188	166	12	
	クリプトスポリジウム症			1				10	6	18	12	92	8	
	クロイツフェルト・ヤコブ病	2	6	3	3	2	2	152	157	178	152	176	118	
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	1					113	95	106	60	52	53	
	後天性免疫不全症候群	9	11	7	5	5	9	1568	1493	1348	1203	1162	970	
	ジアルジア症						1	76	53	86	86	94	103	
	髄膜炎菌性髄膜炎							10	17	14	10	21	18	
	先天性風しん症候群										2	10	1	
	梅毒	8	5	4	3	9	4	839	719	637	543	533	509	
	破傷風	1		2	4	2	2	123	89	117	115	101	73	
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症 <sup>1</sup>													
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症							80	84	83	69	58	59	
	新型イン フルエンザ等	風しん <sup>3</sup>	1	-	-	-	-	-	303	-	-	-	-	-
麻しん <sup>3</sup>		43	-	-	-	-	-	11015	-	-	-	-	-	
計		362	340	67	54	145	97	50721	32702	9937	8829	8863	7504	

注1:(\*)の疾患については2003年11月5日から、(\*)の疾患は2007年4月1日から、(\*)の疾患は2008年1月1日から、(\*)の疾患は2008年5月12日からの数値である。

注2:全国の2008年の報告数は概数である。

注3:全国のE型肝炎及びA型肝炎の報告数については、2003年11月5日以前は(急性)ウイルス性肝炎として報告された数値である。

注4:2007年4月1日からの法改正に伴い、疾患の追加及び並び順を変更している。

注5:急性脳炎は ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介性脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

注6:二類感染症 鳥インフルエンザ(H5N1)の報告数は、2006年6月12日から2008年5月11日までは指定感染症 インフルエンザ(H5N1)として報告された数値である。

注7:四類感染症 鳥インフルエンザ(H5N1を除く)の報告数は、2008年5月12日以前は鳥インフルエンザとして報告された数値である。



表 2-1-2 2008年全数把握対象疾患発生状況(月別)

平成20年1月1日～平成20年12月31日

感染症類型	疾病名	月												
		計	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
一類	エボラ出血熱													
	クリミア・コンゴ出血熱													
	痘そう													
	南米出血熱													
	ペスト													
二類	マールブルグ病													
	ラッサ熱													
	急性灰白髄炎													
	結核	243	19	29	21	22	20	21	22	16	13	27	20	13
	ジフテリア													
三類	重症急性呼吸器症候群(SARS-CoVに限る)													
	鳥インフルエンザ(H5N1)													
	コレラ													
	細菌性赤痢	2	1									1		
	腸管出血性大腸菌感染症	28				12	3	3	6	4				
四類	腸チフス													
	パラチフス													
	E型肝炎													
	ウエストナイル熱(ウエストナイル脳炎を含む)													
	A型肝炎													
	エキノコックス症													
	黄熱													
	オウム病													
	オムスク出血熱													
	回帰熱													
	キャサスル森林病													
	Q熱													
	狂犬病													
	コクシジオイデス症													
	サル痘													
	腎症候性出血熱													
	西部ウマ脳炎													
	ダニ媒介脳炎													
	炭疽													
	つつが虫病													
	デング熱													
	東部ウマ脳炎													
	鳥インフルエンザ(H5N1は除く)													
	ニパウイルス感染症													
	日本紅斑熱	5					1			1		3		
	日本脳炎													
	ハンタウイルス肺症候群													
	Bウイルス病													
	鼻疽													
	ブルセラ症													
ベネズエラウマ脳炎														
ヘンドラウイルス感染症														
発疹チフス														
ボツリヌス症														
マラリア														
野兔病														
ライム病														
リッサウイルス感染症														
リフトバレー熱														
類鼻疽														
レジオネラ症	4		1				1		1			1		
レプトスピラ症														
ロッキー山紅斑熱														
五類	アメーバ赤痢	9			1		1	2	3	1	1			
	ウイルス性肝炎(E型肝炎、A型肝炎を除く)	4	1		1					2				
	急性脳炎	2									1	1		
	クリプトスポリジウム症													
	クロイツフェルト・ヤコブ病	2								1	1			
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1		1										
	後天性免疫不全症候群	9	1			1	2	1			1		3	
	ジアルジア症													
	髄膜炎菌性髄膜炎													
	先天性風しん症候群													
	梅毒	8			2		1	1	2	1	1			
	破傷風	1		1										
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症													
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症													
	風しん <sup>*1</sup>	1	1											
麻しん <sup>*1</sup>	43	1	5	1	2	2		13	8	9	1	1		
新型インフルエンザ等														
再興型インフルエンザ <sup>*2</sup>														
計	362	24	37	26	37	31	28	47	34	26	34	21	17	

注1:(\*1)の疾患は2008年1月1日から、(\*2)の疾患は2008年5月12日からの数値である。

注2:2007年4月1日からの法改正に伴い、疾患の追加及び並び順を変更している。

注3:急性脳炎はウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介性脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

注4:二類感染症 鳥インフルエンザ(H5N1)の報告数については、2008年5月12日以前は指定感染症(H5N1)として報告された数値である。

注5:四類感染症 鳥インフルエンザ(H5N1は除く)の報告数については、2008年5月12日以前は鳥インフルエンザとして報告された数値である。

表 2-1-3 2008年全数把握対象疾患発生状況(保健所別)

平成20年1月1日～平成20年12月31日

感染症類型	疾病名	保健所							
		計	四国中央	西条	今治	松山市	松山	八幡浜	宇和島
一類	エボラ出血熱								
	クリミア・コンゴ出血熱								
	痘そう								
	南米出血熱								
	ペスト								
	マールブルグ病								
二類	ラッサ熱								
	急性灰白髄炎								
	結核	243	17	35	28	99	15	29	20
	ジフテリア								
三類	重症急性呼吸器症候群(SARS-CoVに限る)								
	鳥インフルエンザ(H5N1) <sup>*2</sup>								
	コレラ								
	細菌性赤痢	2			1		1		
	腸管出血性大腸菌感染症	28		1	10	9			8
四類	腸チフス								
	パラチフス								
	E型肝炎								
	ウエストナイル熱(ウエストナイル脳炎を含む)								
	A型肝炎								
	エキノコックス症								
	黄熱								
	オウム病								
	オムスク出血熱								
	回帰熱								
	キャサスル森林病								
	Q熱								
	狂犬病								
	コクシジオイデス症								
	サル痘								
	腎症候性出血熱								
	西部ウマ脳炎								
	ダニ媒介脳炎								
	炭疽								
	つつが虫病								
	デング熱								
	東部ウマ脳炎								
	鳥インフルエンザ(H5N1は除く)								
	ニバウイルス感染症								
	日本紅斑熱	5					2		3
	日本脳炎								
	ハンタウイルス肺症候群								
	Bウイルス病								
	鼻疽								
	ブルセラ症								
	ベネズエラウマ脳炎								
	ヘンドラウイルス感染症								
発疹チフス									
ボツリヌス症									
マラリア									
野兔病									
ライム病									
リッサウイルス感染症									
リフトバレー熱									
類鼻疽									
レジオネラ症	4					3		1	
レプトスピラ症									
ロッキー山紅斑熱									
五類	アメーバ赤痢	9			2	5	1		1
	ウイルス性肝炎(E型肝炎、A型肝炎を除く)	4			1		2	1	
	急性脳炎	2						2	
	クリプトスポリジウム症								
	クロイツフェルト・ヤコブ病	2				1	1		
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1							1
	後天性免疫不全症候群	9		1	1	4	3		
	ジアルジア症								
	髄膜炎菌性髄膜炎								
	先天性風しん症候群								
	梅毒	8		1	3	2	2		
	破傷風	1	1						
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症								
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症								
	風しん <sup>*1</sup>	1		1					
麻しん <sup>*1</sup>	43		5	3	31	3		1	
新型インフルエンザ等									
再興型インフルエンザ <sup>*2</sup>									
計	362	18	44	49	156	28	32	35	

注1:(\*)の疾患は2008年1月1日から、(\*\*)の疾患は2008年5月12日からの数値である。

注2:2007年4月1日からの法改正に伴い、疾患の追加及び並び順を変更している。

注3:急性脳炎は ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介性脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

注4:二類感染症 鳥インフルエンザ(H5N1)の報告数については、2008年5月12日以前は指定感染症(H5N1)として報告された数値である。

表 2-1-4 2008年全数把握対象疾患発生状況(年齢別)

平成20年1月1日～平成20年12月31日

感染症類型	年齢区分 疾病名	計	0	1	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	60	65	70	
			歳	4	9	14	19	24	29	34	39	44	49	54	59	64	69	歳以上	
一類	エボラ出血熱																		
	クリミア・コンゴ出血熱																		
	痘そう																		
	南米出血熱																		
	ペスト																		
	マールブルグ病																		
二類	ラッサ熱																		
	急性灰白髄炎																		
	結核	243	3	1	2		1	5	14	6	15	7	5	9	10	13	17	135	
	ジフテリア																		
	重症急性呼吸器症候群(SARS-CoVに限る)																		
三類	鳥インフルエンザ(H5N1) <sup>*2</sup>																		
	コレラ																		
	細菌性赤痢	2							1									1	
	腸管出血性大腸菌感染症	28		6	2	2	1	3	3	4	1		2		3			1	
四類	腸チフス																		
	パラチフス																		
	E型肝炎																		
	ウエストナイル熱(ウエストナイル脳炎を含む)																		
	A型肝炎																		
	エキノコックス症																		
	黄熱																		
	オウム病																		
	オムスク出血熱																		
	回帰熱																		
	キャサヌル森林病																		
	Q熱																		
	狂犬病																		
	コクシジオイデス症																		
	サル痘																		
	腎臓候性出血熱																		
	西部ウマ脳炎																		
	ダニ媒介脳炎																		
	炭疽																		
	つつが虫病																		
	デング熱																		
	東部ウマ脳炎																		
	鳥インフルエンザ(H5N1は除く)																		
	ニパウイルス感染症																		
	日本紅斑熱	5											1		1	1			2
	日本脳炎																		
	ハンタウイルス肺症候群																		
	Bウイルス病																		
	鼻疽																		
	ブルセラ症																		
	ベネズエラウマ脳炎																		
	ヘンドライルス感染症																		
	発疹チフス																		
	ボツリヌス症																		
マラリア																			
野兎病																			
ライム病																			
リッサウイルス感染症																			
リフトバレー熱																			
類鼻疽																			
レジオネラ症	4																	3	
レプトスピラ症																			
ロッキー山紅斑熱																			
五類	アメーバ赤痢	9								2	1	2	1		2	1			
	ウイルス性肝炎(E型肝炎、A型肝炎を除く)	4						2	1	1									
	急性脳炎	2																2	
	クリプトスポリジウム症																		
	クロイツフェルト・ヤコブ病	2																2	
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1																1	
	後天性免疫不全症候群	9					1		1	4	1	2							
	ジアルジア症																		
	髄膜炎菌性髄膜炎																		
	先天性風しん症候群																		
	梅毒	8					1		1	2		2		1	1				
	破傷風	1																	1
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症																		
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症																		
風しん <sup>*1</sup>	1								1										
麻しん <sup>*1</sup>	43	3	2	2	9	18	2	2	4						1				
新型インフルエンザ等	新型インフルエンザ <sup>*2</sup>																		
	再興型インフルエンザ <sup>*2</sup>																		
	計	362	6	9	6	11	22	12	24	23	18	13	9	10	19	15	19	146	

注1:(\*1)の疾患は2008年1月1日から、(\*2)の疾患は2008年5月12日からの数値である。

注2:2007年4月1日からの法改正に伴い、疾患の追加及び並び順を変更している。

注3:急性脳炎はウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介性脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

注4:二類感染症 鳥インフルエンザ(H5N1)の報告数については、2008年5月12日以前は指定感染症(H5N1)として報告された数値である。